

Vol. **145号**

2009 (平成21)年  
1月1日発行

# Colony Tokyo

# コロニーとうきょう

## 賀正

**コロニー** 社会福祉 東京コロニー  
法人  
〒165-0023  
東京都中野区江原町2-6-7  
TEL 03-3952-6166  
FAX 03-3952-6664  
<http://www.tocolo.or.jp/>  
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 21 作者 蔵貫 信さん 『バタバタ飛行船』(詳しくは13頁をご覧ください。)

時評

とびつくす

法人の主な動きから

2008年度 上半期総括事業報告書

法人本部・コロニー中野・アートビリティ・トーコロ生活支援センター・IT事業本部・デジタルメディアセンター・トーコロ情報処理センター職能開発室 (〒165-0023 中野区江原町2-6-7) 中野区精神障害者社会復帰センター (〒164-0001 中野区中野5-68-7) トーコロ情報処理センター事業部 (〒162-0051 新宿区西早稲田2-2-8) 葛飾福祉工場 (〒125-0042 葛飾区金町2-8-20) 立石工場 (〒124-0012 葛飾区立石8-50-1) コロニー東村山 (〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9) 大田福祉工場 (〒143-0015 大田区大森西2-22-26) 浜松町工場 (〒105-0022 港区海岸1-4-17) トーコロ青葉ワークセンター・トーコロ青葉第三ワークセンター (〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10) 国分寺戸倉寮 (〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9) 東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮 (〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22) 東久留米第三氷川台寮 (東久留米市神宝町2-14-26)



法の障害福祉サービスに移行させ、国の謳い文句を超える事業展開を図っている現況にあります。この背景には前年度ベースで63億7千万円の売上高や国の特別対策による公費収入の加算、さらには国や都や区市の委託収入、また民間企業の物心両面での支援が得られていることにもよりますが、何よりも大きいのは私どもの事業を利用していただいている障害のある人たちの満足度の高さが支えになっていることにあると受け止めています。

### 3、法が求める以前の取組結果

前項においてもいくつかの点においては記述しましたが、「地域移行」では5年前より30名定員の2施設の寮から地域のアパート等への入居の取組を行い、2年かけて全員を通所化し、「一般就労」では有料職業紹介事業（いわゆるハローワークの機能）の規制緩和による民間開放の制度変更を受けて、社会福祉法人として7年前に第一号となる認定を受けて民間企業の視点で職業訓練等が行える体制を整え就労移行支援事業の前年度実績では定員の27.7%を一般就労させ、「3障害の一本化」では養護学校卒業後対策のための青葉ワ

ークセンターの開設と増築の際（1990年および1995年）には身体障害者18名、知的障害者47名、精神障害者25名の施設を同一建物内（4階建）で混合して就労できるようにし、この取組みは現在では当法人のあらゆる施設、事業でも（身体189名、知的116名、精神55名）取組まれるようになっていきます。また「市区町村を窓口」に対しては規模の大きい施設では、20年以上前から地域を巻き込んだフェスティバル（コロニー祭）の実施や市や区の行政に組織を挙げて協力姿勢を持つて参加し、市・区のニーズには可能な限り応えることで地域のネットワークづくり等にも積極的に参加しています。

### 4、より一層の充実に向けて

現状の事業実績は前述のとおり障害者自立支援法成立以前から、障害のある人たちのニーズを第一に、社会に対する社会福祉法人としての使命を果すために取組んできたものであって、結果として法の謳い文句と合致した面が多数あるもので、決して法が求めるからではなくむしろ法施行により「膨大な事務量の増加」や「利用者処遇の一部の切り下げ」

を余儀なくされるなどデメリットの部分もありました。しかし、この法によるメリットをより追及するとするならば、地元自治体や地元障害関係者との関係を目的・意識的に深めることにより、その地域の福祉は地域の連携によって守り向上させて行くといった道筋をつける努力をより図り始めたことや、一般就労への積極的な取組みと地域生活へのサポートの充実をより図ることが挙げられます。

具体的には行政を始め地域の意識変化や企業のコンプライアンスの視点での協力が得易くなりつつあることにあります。こうした社会全体の流れを私たちは見逃すことなく積極的にアプローチし、障害のある人たちにとつての安心につながる取組みをしなければならぬと考えています。

### 5、最後に

障害者自立支援法は現在施行後3年目の見直し作業が精力的に行われていると聞きますが、その中では現存する社会資源としてのこれまでの施設・事業等の安定的な維持のための特別対策や緊急措置の恒久化とともに事業運営のための報酬単価の大

幅な見直しによるアップは、私たちの事業運営を支える障害のない人たちのモチベーションを上げるだけでなく、人材確保にも寄与することになると思えます。わが国の経済の先行き不安だけでなく、老後や非正規雇用者が雇用労働者人口の3分の1にまで達した不安定な社会の中で如何に不安を取り除くかが国民の不安感を払拭し、経済の活性化にも繋がるものと思えています。活性化された社会があつてこそ、私たちは障害のある人たちに「この国に生まれて良かった」と言ってもらえるような気がしますし、さらには障害のある人たちの権利保障のための施策の充実によつてもたらされる国のあり様は障害のない人たちにとつてもより安心を与えることに繋がるものだと思います。新年に当たつて改めてそのためには私たち自身の事業の実績を維持し発展させる責任があると思つていきますのでどうか本年も皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。



# とあす

## コロニー東村山

### アートビリティ大賞に想う

「才能に、障害はない」をキャッチフレーズに障害者アートバンクとしてスタートしたこの事業は、障害者の芸術的才能に視点を当て、障害者アートの普及と障害者の所得を支援するという明快な事業理念の元、7年前にアートビリティに名称変更し、今年で23年目を迎えました。現



在では約200名の作家による約3,500点の作品がストックされた堂々たる芸術ライブラリーに成長しました。この間、事業を支えていただいた数多くの作家のみなさま、企業や団体のみなさまには、心より感謝し改めてお礼申し上げます。

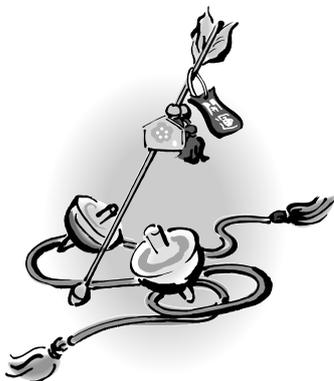
アートビリティ大賞授賞式は今年で20周年の節目にあたり、11月6日に開催された式典では、その年の顔となるべき作家に贈られるアートビリティ大賞、将来が嘱望される新進気鋭の作家に贈られるアサヒビル奨励賞、独自の路線を歩む作家に贈られる日立キャピタル特別賞を表彰し、ご紹介させていただきました。あわせて、日頃より支えていただいている関係者のみなさまや、作家のみなさまが交流できる貴重な時間でもありました。また、より多くの方に原画のすばらしさを実感していただくために、11月5日から10日までの6日間、銀座・柴山画廊にて「アートビリティ大賞作家展」も同時開催し、ご好評をいただきました。

他方では、障害のある子ども達の可能性を応援し、次世代の才能を発掘するために、三菱地所株式会社様が主催する「キラキラっとアートコンクール」にも事務局や審査員

として協力させていただき、今年は、「キラキラっとアートコンクール」のPRを目的に、等身大の牛のオブジェにペイントし、丸の内の街に展示するという国際的なアートイベントである「カウパレード2008」にも、登録作家と共に参加させていただきました。そして、千葉で開催された「2008年の花アビリンピック」では、今年の静岡に続き「アートビリティ作家展」を開催することが出来ました。

このようにアートビリティの作家や作品が、表舞台に紹介される機会が増えていくことを心よりうれしく思い、信頼されている事業への責任も感じていきます。アートビリティは、今後もより多くの作家や作品を紹介していきます。これからもどうぞよろしく願います。

アートビリティ代表 中村敏彦



## 青葉ワークショップセンター

### 「鉄道博物館日帰り旅行」

11月14日(土)に日帰り旅行が行われました。当日はとても天気が良く、絶好の旅行日和でした。今回は、私たちが旅行先に選んだ鉄道博物館は、体験型の展示がたくさんあり、鉄道ファンならずとも楽しめる場所になっています。その為、開館して一年が経っても凄い人気で、当日も埼玉県民の日が重なったとは言え、平日なのにたくさんの方が見学に訪



れていました。今回、旅行の行き先を決める際、皆さんにアンケートをお願いしました。その中で一番行きたい場所を選ばれたのが鉄道博物館でした。改めて鉄道博物館の気持は凄いのだと驚きました。このような経緯で旅行の行き先を決めさせてもらったのですが、旅行を企画した立場からすると、当日まで本当に皆さんに喜んでもらえるだろうかと正直なところ不安がありました。けれども多くの方に「楽しかった。」と言ってもらえてホッとしています。中には鉄道にはあまり興味がない方もいたかも知れませんが、仲間とともに過ごす時

間は場所がどこであっても楽しいものなのかも知れません。それが旅の醍醐味ではないでしょうか。

今回の旅行ではたくさんの方の協力を頂きました。一緒に参加していただいたボランティアの方々やとても親身になって旅行の手配をしていただいた旅行会社の方には、改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

総務課 係長 島田 豊

## コロニー中野

### 今年度のIT講習事業

昨年度より中野区から受託を開始した「障がい者の就労のためのIT講習会」も1年半がすぎました。

昨年度の事業の中では本講習受講生のうち3名が一般就労に結びつくことができました。またそれ以外の方たちも講習終了後の個別支援会議を開催し、関連支援機関が連携をとることにより、これまでとは違った支援内容になってきております。さまざまな経験の中からご自身の人生を考えていただくきっかけになっているようです。

昨年この講習に補助講師として参加していたいただいた障害のある方たちもプロの教え方を目の当たりにし、

教えていくにあたっての実践的なスキルを身につけてきました。中野区からの委託事業のない合間を縫って所内の利用者の皆さんへのIT講習を実施してきましたが、明らかにスキルアップが感じられました。このような経緯を踏まえて今年度の新たな事業として障害者委託訓練事業、知識技能習得訓練コースの受託を行うこと進めてきました。

今年度の計画の中では3回実施を予定として組んでおり、しごと財団さんと話し合いながら進めてまいりましたが、現在最終クルールの講習を行っているところです。

これまで2回開催した中では個々の障害特性であったり、配慮すべき事柄などを講師となる利用者の皆さんと支援課メンバーで検討しながら進めてきました。

新たな就労支援事業としての可能性を具体化するとともに、コロニーで働く当事者の皆さんだからこそできる講習を目指し支援課ともども今後も頑張っていきたいと思っております。

※障害者委託訓練事業とは東京都が国から委託を受け(財)東京しごと財団 心身障害者職能開発センターが業務委託を受けて実施する事業であり、地域のさまざまな就労に必要な知識や技能を付与することを目的として行われています。

総務部支援課長 井上忠幸

## 葛飾工場

どんなに便利な時代になっても、過去の手作り旅行の精神を忘れずに

紅葉の繁れる11月20日(木)、21日(金)、恒例の社員旅行が無事行われました。初日はバスで、都庁跡地で今はその面影が全く感じられない東京国際フォーラムにある、相田みつを美術館に行きました。「にんげんだもの」で有名な相田みつをの作品を鑑賞するのは初めての機会でしたので、形式にこだわらない斬新な筆遣いに身震いがする程の感動を覚えました。

いわさきちひろとのコラボレートの展示会もあり、まさしく、強さとやさしさ、動と静のハーモニーを二人の作品を見て感じる事ができました。頭で考えるのではなく、心と身体、まさしく肌で感じさせる二人の



そして、お台場からメインイベントとも言える東京ディズニーランドに着いた時には、まさしく童心に返った気分になっていました。まずは、ディズニールランドに

パワーを全身で受け止めながら、再度バスに乗り、昼食の会場であるお台場に移動しました。

約80種類ものバイキング料理を楽しむながら、お台場の未来都市のよ

一番近いホテルで夕食会が行われ、その後、場所を移して、世界で7千万人もの人々が見たという「シルク・ドゥ・ソレイユ」を鑑賞しました。最初はマツスルミュージカルの海外版と高を括っていたのですが、サーカスとミュージカルの融合、そしてその物語風になっている舞台の構成の素晴らしさに思わず衝撃を受け、感動せずにはいられませんでした。エンディングは当然スタンディングコールも起こり、会場は割れんばかりの拍手喝采の渦になりました。

2日目は、ディズニールランドとディズニースキーに分かれ、それぞれ希望するところに行き、終日楽しむことが出来ました。

帰路、車窓から景色を眺めながら、初めて社員旅行に参加した頃のことを思い出していました。当時はバリアフリーという言葉もない時代で、当然リフトバスは無く、背負ってバスに乗ったりとか、別のワゴン車やホテルの中に臨時のポータブルトイレを作ったりなどして、まさしく、その時代の中での、本当に手作りの旅行をやっていたんだなと思っていました。どんなに時代が便利になっても、その頃の初心を忘れる事なく、また、明日からの仕事に励もうと気持ちを新たにしました。

業務課長

多摩営業所長 川原 英司

## 福祉事業本部

### 第一回福祉事業本部合同

#### 研修会の開催

平成20年11月21日(金) 13時～15時半、福祉事業本部のグループホーム・ケアホーム事業、トータル生活支援センターのヘルパー事業に関する計13名で研修を行いました。今までは、各事業所単位でそれぞれのニーズに添った内容の研修を行っていたのですが、福祉事業本部の事業拡大に伴い、第一回目の合同研修会を二部形式で行い、交流会を含めたホットな感じで試みました。

第一部は、中野区精神障害者社会復帰センター(本年度より当法人で受託)の主任指導員であり精神保健福祉士・社会福祉士の松本直子さんに講師を依頼し、「精神障害者の理解のために」と題して講演をしていただきました。

障害者自立支援法の成立により、身体・知的・精神の3障害共通の福祉サービスとなったことから、トータル生活支援センターでも精神障害のある方への支援も徐々に増えています。ヘルパーも老人介護や身体障害・知的障害の方の支援の経験はあっても精神障害のある方への支援の経験はほとんどなく、どのように

接していったらいいのか、どのように支援をしたらいいのかわらないこともあります。

講演は、初心者向けの内容でたいへん分りやすく、精神障害とはどのような障害なのか、基本的な部分ではありますが理解することができました。今後の支援に大きく役立てることができそうです。

第二部は、交流会です。「ころ・ころ」のおいしいプリンを食べながら、リラックスした雰囲気で行いました。当日、初めて会う人も多く、とても新鮮でたくさんの仲間がいることを実感したと思います。自己紹介の時に、近況報告等もして、参加者が日頃考えていることや悩んでいることなど、率直に話すことができました。福祉事業本部は、一人仕事が多く、集まって話をするのが非常に少なく、今回の交流会は、とても意義あるものだったと思います。

トーコロ生活支援センター

サービス提供責任者

主任 木村 敏隆



## IT事業本部

アートビリティとのコラボで  
在宅就労グループのデザイナー  
が活躍！

es-team (エス・チーム) の取り組みから

昨年11月に開催された「第20回アートビリティ大賞」表彰式典に、職能開発室が運営する在宅就労グループ「es-team (エス・チーム)」の登録メンバー2名がはじめて参加し、ユーザや登録作家の方々およびコロニーのスタッフとの親睦を図る機会がありました。

式典に参加したのは、古関祐一さんと佐久間庸さん。2人ともグラフィックデザイナーの分野を得意とし、日ごろはes-teamの在宅ワーカーとしてWEBサイトの制作や印刷物のデザイン・DTPなどを手がけています。実はこのお二方は、子どもたちのアート支援としてすっかりおなじみとなった「キラキラつとアートコンクール」(主催 三菱地所株式会社、協力 アートビリティ)において、広告・告知媒体一式の企画・デザインを担当したことなどがきっかけとなり、アートビリティの作品を仕事に活かす機会が増加。昨年5月には、スタッフや外部デザイナーの指導・



「大賞式典に参加した古関さん(左)と佐久間さん。」

協力のもと、コンペとなった今回の企画・デザイン提案に参画しました。提案にあたってはスタッフに何度も相談を重ね、自らがプレゼンも行うなど万全の準備で臨んだ結果、イベントに使用するポスターやチラシ、ノベルティグッズ、原画展の開催案内、名刺やDMなどのデザインや制作業務を一手に受注するという快挙を遂げることができました。

できあがったポスター等は子どもたち



「es-teamがデザインを手がけたポスター。」

の個性豊かな作品とコンクールの主旨が存分に表現されたデザインで、文字どおり「子どもたちの『キラキラ』が凝縮されている」との評価を得ています。

今回のアートビリティとのタイアップは、デザイナーが作品を創るプロセスにおいて、既存のイラストを自分のデザインに組み込むことにより、障害のあるアーティストとデザイナーの力がそれぞれ相乗的に発揮され、それが仕事につながったという点でも大きな成果があったと思われまます。前述の大賞式典では、アートビリティの歴史や法人の他の事業への理解も深まり、多くの人たちにes-teamの取り組みを紹介することもできました。今年で9年目を迎える技術者集団「es-team」を、今後ともよろしく願っています。

職能開発室 主任 吉田 岳史



## 新会計（就労支援事業会計の処理基準）移行の完了について

コロナとうきょう142号（2007年7月発行）で一回、143号（2008年1月発行）でも一回、進捗を含め報告させて頂きました。新会計基準による移行処理が完了し、中間決算報告として理事会にて承認されました。

新基準が厚労省より通達されたのが2006年10月2日でしたが、私を含め各施設担当者がこの基準を最初に見にしたのがその数日後で、今でもその時の衝撃を良く覚えております。当時から実務家だけでなく公認会計士や税理士等の会計の専門家がこの基準に批判的なご意見を発言されていた方が多かったのですが、それも十分に納得できる乱暴な印象を私自身も受けました。

当法人だけのことを考えても情報量が膨大に増え、現状（当時）の集計方法では事務負担が多すぎて決算が組みなくなってしまうことが明らかでした。

増大する情報量は、もちろん施設

によって異なりますが、少なくとも3倍〜10倍程度は覚悟する必要があると思います。

その衝撃から、丸2年。低コスト・利便性・将来の変化への適応能力を中心とした課題に取り組んできました。当時は移行が済んだ施設も無く、情報収集も満足にできない手探り状況でした。現実的な問題も多く、経済的な制約や福祉大臣の現状のバージョンでの性能の限界などのハードルがあり、その前提として各担当者が旧来負っていた事務負担を大きくは増やせないという計算経済性の観点から何度も暗礁に乗り上げてしまいました。

ただ、結果的には関係した内部スタッフや協力して頂いた外部の会社の方々の踏ん張りにより、その殆どの課題を乗り越えることができました。今回の中間決算の際に集計した結果が整合していることが分かったときは、約2年間の努力と関係者の思いが報われたような感覚になりました。たし、集計合算という観点では、情報量が何倍にも増えているにも関わらず、事務負担が昨年以前と殆ど変わらなかったことを考えると合理化が進んだと言えます。

また、旧来の手作業による集計方

法から機械的な集計方法に技術がレベルアップしたことにより、次世代の更なる合理的な運用の可能性も勝ち取れたこととなります。

今後は噂される社会福祉法人統一新基準への変更や、本決算に向けた会計処理の内容に関しての対応に努めたいと思います。

法人本部 経理担当課長 立花淳一

## 与党国会議員来所

9月16日（火）の夕方、自民党の石原伸晃議員が、菅原一秀衆議院議員と松本文明衆議院議員と共に当法人のコロナー中野（中野区江原町）を訪問されました。障害者自立支援法が施行された現場の視察が目的のことで、多機能型（就労移行支援、就労継続支援B型）事業の実際の作業場である業務課のメールサービス事業、印刷事業の版下や名刺作成、IT講習会の会場、居宅支援事業の事務所などを見学されました。就労移行支援事業や職能開発室の事業において多くの就職支援をしていること、事業の中で多くの障害のある方が働いていることなどに感心されて

いました。最後に、バーガーショップ「ころ・ころ」（調理や接客を通じた就労移行支援の体験事業）のテールで勝又理事長や武者所長（常務理事）も一緒に談笑され、「ころ・ころ」自慢のハンバーグ、メンチやコロツケのバーガーを「これはウマイ！」と食べて下さいました。

また、11月17日（月）には公明党社会保障部会の障害者福祉委員会高木美智代委員長（衆議院議員）がコロナー中野を訪問され、法人の事業についての説明を聞きながら見学され、「熱心にやられている」との感想を述べられました。



**中野江原寮「えはら  
ハイツ」(グループホ  
ーム・ケアホーム)  
二月開設めざして**



福祉事業本部では、現在4寮(東久留米第一・第二・第三氷川台寮・国分寺戸倉寮)のグループホーム・ケアホームを開設以来5年、10年を経過する中で「障害のある方の地域での自立したふつうの暮らしを支援します。」を理念にして運営をしてまいります。

て新しいグループホーム・ケアホームとして利用することになりました。東京都独自事業である「重度身体障害者グループホーム」については、中野区から積極的に応援をいただき1階に「身体に障害がある方」のグループホームを、2階は知的障害のある方のグループホーム・ケアホームと短期入所事業を実施することになりました。

建物は木造2階建てで、場所は江原町3丁目にて大江戸線新江古田駅から徒歩5分のところで現在、改修整備の大詰めを迎えています。

利用定員は、身体の方5名、知的の方4名、そして短期入所を2名としています。従業員の配置はサービス管理責任者1名、世話人2名、生活支援員5名(非常勤も含む)程度の予定です。

11月に法人内で入居に関するアンケートを実施しましたが、90人以上の利用者さんやそのご家族が回答を寄せて下さいました。「グループホーム・ケアホーム」への関心が高いことがわかり、現在ある寮も含めより一層、良い運営をしなければと考えています。また、11月11日にコロニー中野、12日に青葉ワークセンター・コロニー東村山にて「中野江原



寮の説明会」を開催し、30名以上の利用者さんやご家族などに参加していただくことができました。グループホームができましたら是非に、と希望される方や「今すぐは入居を考慮していないが、将来は入居させたい」、「場所が遠いので利用は困難」、「年金だけで利用料を払っていくことができるのか」などの質問や意見が出されました。

法人内のこうした要望に対しては今後の課題ととらえ、今回開設する中野江原寮については可能な限り中野区在任の方を優先に入居者を決めて行きたいと考えております。

中野江原寮「えはらハイツ」は、お風呂、台所、各部屋はとても明るく、2月には新しい仲間と新しい生活がスタートできるように着々と準備を進めています。

福祉事業本部 中野江原寮

管理者・サービス管理責任者

課長 福原明廣

**ご協力をお願い**

社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方への支援を就労や職業訓練、生活の面から数多くの事業を行なっています。めざすことは、それらによる障害者の大きな意味での自立支援です。

私共の事業を応援して下さい方(あるいは団体)からのご協力を、下記を窓口で常時受け付けております。ご寄附の場合は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。(社会福祉法人への寄附は、税金が一部免除になります。ご寄附をいただいた際はそのための領収書を発行させていただきます。)

ご寄附受付 法人本部事務局(担当 加藤) TEL 03-3952-6166



金では前年度上半期を大きく上回るものとなりました。

メールサービス事業等（青葉ワークセンター）は、社会就労事業本部内における連携や新たなプログラムメニューの導入等により本年度上半期も新体系事業への転換を通じて、新たな事業目的の達成に向けて取組んだ結果、授産事業面での受注の減少対策が必要となってきたことから、新規事業の導入についてプロジェクトを組織して検討を進めつつあります。

生活支援事業は、グループホーム・ケアホーム事業の安定的な運営と新たな寮の開設に取り組み、5月にアパートでの一人暮らしを目指したグループホーム・ケアホーム（第三氷川台寮・定員2名）を開所しました。また下半期の中野区内での身体・知的のグループホーム・ケアホーム等の開設に向けた準備を進めました。

居宅介護事業については、経営改善及び管理体制の強化をめざし事業推進を図りました。

**4. その他**

以上の事業の他、障害施策の改革に対応するための関係機関への取り組みとともに、本年度も全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、日本障害者協議会、社団法人ゼンコロ等各種関係団体における当法人としての役割を果たしました。

総括決算損益推移表

(単位：千円)

		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
1. 法人本部	中間決算	10,475	17,231	16,800	16,992
	決算	22,687	37,931	36,153	* 33,000
	損益累計	132,505	170,436	206,589	* 239,589
2. 福祉事業本部 (グループホーム・ケアホーム・ トーコロ支援生活センター)	中間決算	389	1,306	8,526	3,259
	決算	4,178	4,400	13,874	* 3,723
	損益累計	11,763	16,163	30,037	* 33,760
3. IT事業本部	中間決算	9,589	14,546	7,964	6,859
	決算	22,746	16,821	9,919	* 5,323
	損益累計	95,575	112,397	121,825	* 127,148
(1) トーコロ情報処理センター事業部	中間決算	4,866	2,663	1,687	1,636
	決算	10,784	10,814	5,024	* 2,936
	損益累計	67,158	77,973	82,996	* 85,932
(2) 職能開発室 (含 事務局)	中間決算	- 629	8,139	6,995	4,111
	決算	914	1,622	796	* 658
	損益累計	7,435	9,057	9,363	* 10,021
(3) デジタルメディアセンター	中間決算	5,352	3,774	- 718	1,112
	決算	11,048	4,385	4,099	* 1,729
	損益累計	20,982	25,367	29,466	* 31,195
4. 社会就労事業本部	中間決算	- 61,257	- 45,682	- 43,348	- 20,182
	決算	15,761	8,963	- 12,418	* 10,375
	損益累計	- 448,018	- 439,055	- 451,472	* - 429,794
(1) コロニー中野	中間決算	- 36,125	- 23,592	- 27,380	- 20,292
	決算	3,088	877	- 3,847	* - 31,595
	損益累計	- 344,914	- 344,037	- 347,884	* - 368,176
(2) コロニー東村山	中間決算	- 31,190	- 23,622	- 25,649	- 5,169
	決算	599	749	- 14,340	* 31,595
	損益累計	- 140,264	- 139,515	- 153,854	* - 122,259
(3) トーコロ青葉ワークセンター	中間決算	6,058	1,532	9,681	5,266
	決算	12,074	7,337	5,769	* 10,375
	損益累計	37,160	44,497	50,266	* 60,641
(4) 中野区精神障害者復帰センター	中間決算				13
	決算				* 0
	損益累計				* 0
5. 福祉工場事業本部	中間決算	276,557	37,710	- 10,012	81,315
	決算	503,583	144,812	74,467	* 256,862
	損益累計	2,026,043	2,170,854	2,245,321	* 2,502,183
(1) 葛飾福祉工場	中間決算	305,344	48,011	10,262	78,544
	決算	499,948	143,682	67,221	* 254,045
	損益累計	2,334,720	2,478,402	2,545,623	* 2,799,668
(2) 大田福祉工場	中間決算	- 28,787	- 10,301	- 20,274	2,771
	決算	3,635	1,130	7,246	* 2,817
	損益累計	- 308,677	- 307,548	- 300,302	* - 297,485
合 計	中間決算	235,753	25,111	- 20,070	88,243
	決算	568,955	212,927	121,995	* 309,283
	損益累計	1,817,868	2,030,795	2,152,300	* 2,472,886

\*見込額



# アートビリティ ギャラリー 21

『パタパタ飛行船』  
蔵貫 信さん



■アートビリティ

1986年障害者アートバンクとして設立。「才能に障害はない。アートの分野において、障害者の才能は健常者とかかわらない」を基本姿勢に活動を続けています。現在は、登録作家約200名、登録作品数約3,500点、年間使用作品数は400点を超えます。2002年4月、アートビリティと改称。

今回は、第20回アートビリティ大賞を受賞した蔵貫信さんの作品をご紹介します。

蔵貫さんは、障害者アートバンクの初期の時代から、長きにわたってずっとアートビリティを支え続けてくれた作家さんです。しかもこんなに長い間、人気が衰えることなく作品が使用され続けているという意味でも、たいへん貴重な作家さんなのです。その秘密は、蔵貫さんが常に新しいことにチャレンジし続け、作家として前向きに努力を続けているというところにあります。

アートビリティのホームページで、蔵貫さんのページをご覧になった方は、そのさまざまな作風のバリエーションに驚くことでしょう。特に最近の蔵貫さんの水彩画は、筆のタッチや線が秀逸で、ユーモアにあふれ、原画をお見せできないのがほんとうに残念なほど、とても魅力的な作品になっています。

アートビリティの審査会においても、蔵貫さんは審査員の方たちから絶大な支持を受け、その作品の魅力にとりつかれております。

そんな蔵貫さんに大賞受賞式で初めてお会いすることができ、念願かなってお話ことができました。ご本人の印象は、穏やかでやさしいお人柄の中に、静かな闘志を抱え、そして視野の広いバランス感覚を持った人だなと感じました。

あの愛らしい（それでいてどこかシニカルでもある）作品の作者らしい、キラキラした目が印象的です。

すでに蔵貫さんは、また一つ作品のバリエーションを増やすために、新しい挑戦を始めています。常に進化を続ける蔵貫さん。その行く末を楽しみに見守りたいと思います。

（アートビリティ 事務局 岡嶋 明美）

在籍者の推移

自2008年4月1日 至2008年9月30日

（単位：人）

	前年度末 在籍者数	期中増減				法人内異動を除く主な減員理由		年度末 在籍者数
		増員		減員		自己都合	疾病、その他	
雇用就労者	106 (9)	4 (0)	(1) (0)	6 (0)	(1) (0)	4 (0)	1 (0)	104 (9)
事業施設の利用者	196	45	(2)	18	(2)	16	0	223
その他	32	1	(0)	0	(0)	0	0	33
障害のある就労者（計）	334 (9)	50 (0)	(3) (0)	24 (0)	(3) (0)	20 (0)	1 (0)	360 (9)
障害のない就労者	266	27	(6)	11	(6)	5	0	252
合計	600 (9)	77 (0)	(9) (0)	35 (0)	(9) (0)	25 (0)	1 (0)	642 (9)

- (注) 1) A型利用者については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の（ ）で再掲しています。  
 2) 年度末在籍者数には非常勤嘱託医を含んでいます。  
 3) 年度末在籍者数にはグループホーム・ケアホーム利用者を含んでいます。  
 4) 増員および減員の各右欄には法人内異動を（ ）で表記しています。

# 東京コロニーの ホームページ



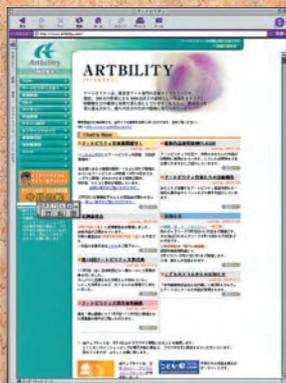
東京コロニー メインページ  
<http://www.tocolo.or.jp/>



コロニー印刷  
<http://www.colony.gr.jp/>



デジタルメディアセンター  
<http://www.tocolo.or.jp/dmc/>



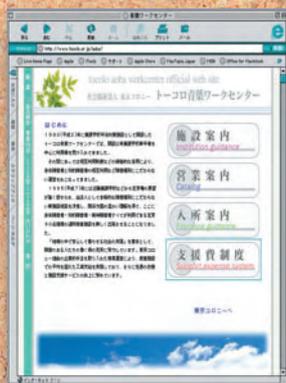
アートビリティ  
<http://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場  
<http://www.tocolo.or.jp/oota/>



トーコロ情報処理センター職能開発室  
<http://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



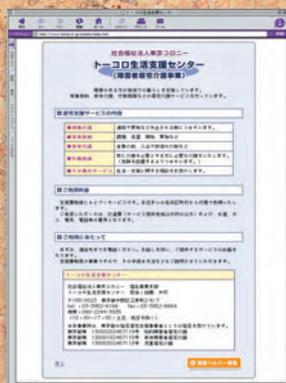
トーコロ青葉ワークセンター  
<http://www.tocolo.or.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場  
<http://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部  
<http://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター  
<http://www.tocolo.or.jp/seikai/index.html>



グループホーム・ケアホーム  
<http://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>